

■高校野球のケーススタディー（第32回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ タイブレイクの変更点

第100回大会からタイブレイクが導入され、今年で5年目になります。昨年度は選手権大会の決勝戦がタイブレイクとなる白熱した展開となりました。当初は審判員、選手ともに不慣れな点が多く、うまく運営ができない場面もありましたが、日頃の練習試合の中でも取り入れることでスムーズな運営ができるようになってきました。今回は、そのタイブレイクについて変更された部分があるため、確認をおきます。

- ・ タイブレイクが昨年度までは延長13回でしたが、**延長10回**から適用することになりました。
- ・ タイブレイクにおける走者の待機（確認）位置や動きが甲子園での全国大会と同様になりました。

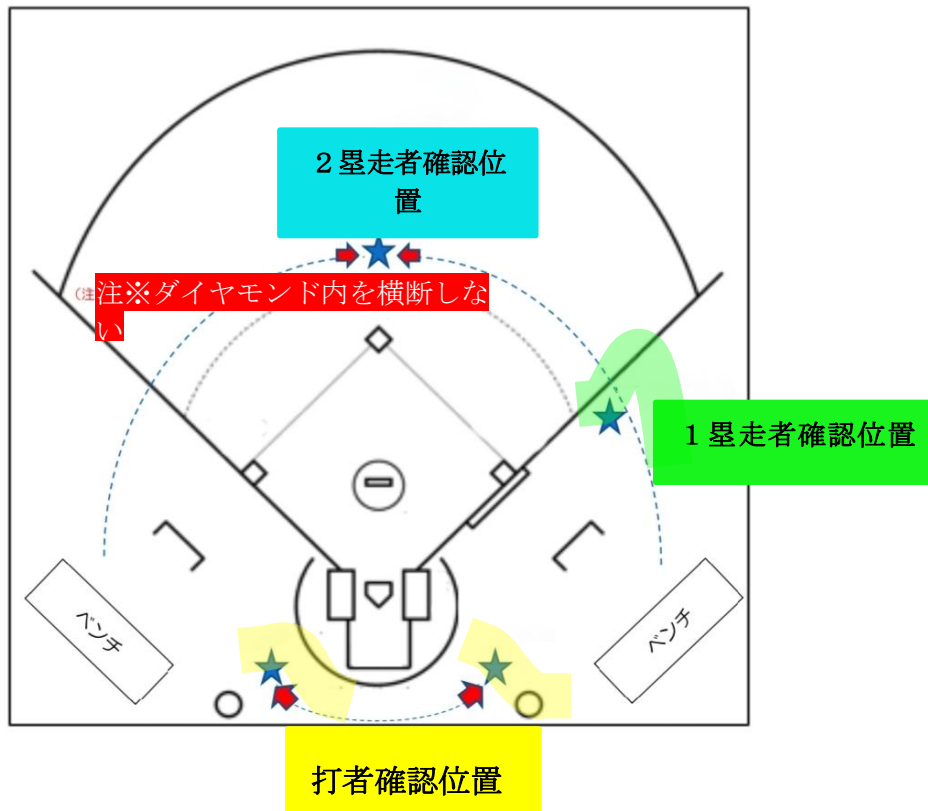
① タイブレイクとは・・・

高校野球では「高校野球特別規則 23 タイブレイク制度の採用」に規定されています。

- ① 9回終了して同点の場合、10回からタイブレイクを開始します。
- ② 打順は、9回終了時の打順を引き継ぎます（次回以降も前インニング終了後からの継続打順となります）。
※走者は、無死1・2塁の状態から行います。この場合の2人の走者は、先頭打者の前の打順のものが1塁走者、1塁走者の前の打順のものが2塁走者となります。例えば、9回の攻撃において8番打者で終了した場合、10回の攻撃では9番打者が先頭打者、8番打者が1塁走者、7番打者が2塁走者となります。「投手」であっても該当する打順であれば、走者となります。臨時代走者には、投手は除かれるとする特別規則がありますが、タイブレイクのときは走者となりますので混同しないようにしましょう（誤って理解されていることが多いようです）。
- ③ 1人の投手が登板できるインニング数は、15インニングを限度としています。
- ④ 現在では決勝戦もタイブレイクを採用しています。
- ⑤ タイブレイクでのインニングの途中、天候や日没等の影響で試合が停止した場合は、翌日以降に「継続試合」として停止になった個所からゲームを再開します。

② タイブレークの進め方や選手の動きはどう変わったの・・・？

【タイブレーク時の打者・走者の確認位置】



① 打者、走者の確認する位置について

- ・ 先頭打者は、ダートサークル★付近（自分の入る打席側）
- ・ 1塁走者は1塁線ファウルラインの外側芝生★付近
- ・ 2塁走者は2塁ベース後方の芝生★付近

※ダイヤモンド内はボール回しをしているため、横切ることなく芝生付近を通って移動するようにします。

所定の位置につけば、間違いがないか確認するため、本部（バックネット側）に背番号を見せてください。

③ 代打・代走やタイムをとる場合はどうなるの・・・？（※従来通りです）

攻撃側の代打・代走は、各走者が塁に着いた後に、改めて受け付けるようにします（まず、当初の選手が塁に着くことが必要になります）。選手交代の場内アナウンスとスコアボードの変更を確認後、球審はプレイを宣告します。

原則としてタイブレーク前（9回終了時）にはグラウンド整備が行われます。

延長戦に入っても日頃からタイブレークの方法を十分に熟知しておくことで、実際にタイブレークに直面した場合でも選手全員が慌てることなくゲームに集中した状況で臨むことができるのではないのでしょうか。

表題デザイン協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
桂 楓杏さん（74回生）